

平成30年度病害虫発生予察注意報（第8号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：シロイチモジヨトウ
2. 対象作物：エンドウ、キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、
宿根カスミソウ、カーネーション、スターチス
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 発生時期：4月～11月
6. 注意報発表の根拠
 - 1) 紀の川市のフェロモントラップによる9月1日～20日の誘殺数は210頭（平年23.9頭）であった（図1）。
 - 2) 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は57%（過去9年の平均26%）、生息株率は12.9%（過去9年の平均6.3%）であった（図2）。

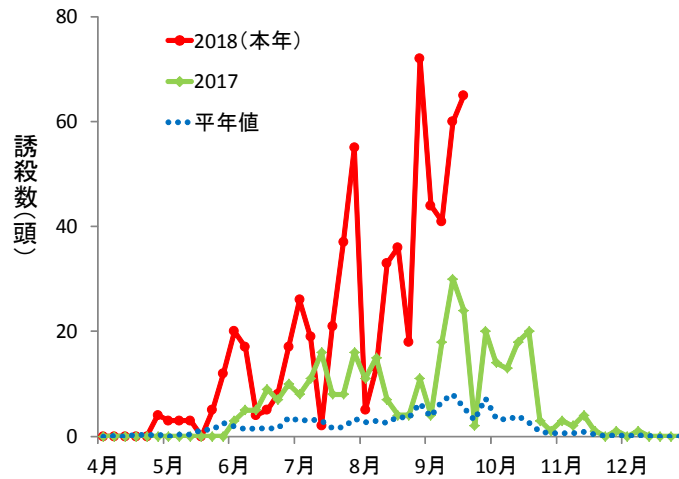


図1 フェロモントラップ誘殺数の推移（紀の川市）

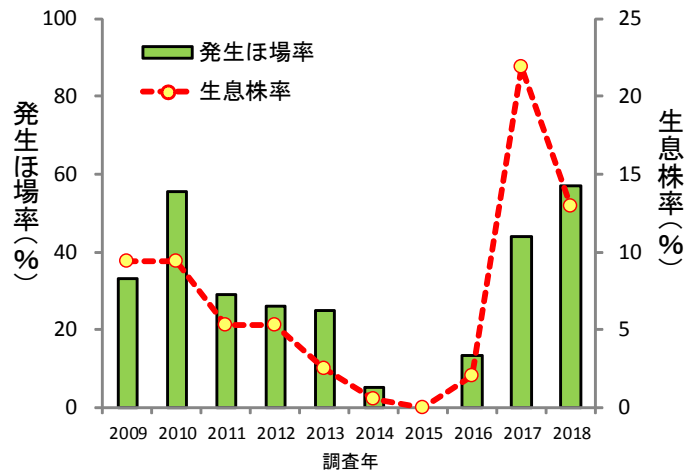


図2 露地栽培エンドウにおけるシロイチモジヨトウ発生率の推移（県中部、9月）

7. 防除上の注意事項

- 1) 幼虫は作物の芯部に潜り込む性質があり薬剤の防除効果が上がりにくいことから、物理的防除法（黄色蛍光灯、防虫ネット被覆）や性フェロモン剤による交信攪乱などを併用する。
- 2) 寒冷紗や防虫ネットによる被覆内においても被害発生に注意するとともに、エンドウ栽培では被覆除去後の防除を徹底する。
- 3) 卵塊や分散前の幼虫は、見つけしだい捕殺する。
- 4) 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
- 5) 有機リン剤、ピレスロイド剤、カーバメート剤等に対して感受性の低下が報告されている。表1を参考に効果の高い薬剤を使用するとともに、同一系統の薬剤は連用しない。
- 6) 薬剤については、最新の登録情報（（独）農林水産消費安全技術センター・農薬登録情報提供システム https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。薬剤によって使用できる作物、希釈倍数、使用時期などが異なるので注意する。

表1 シロイチモジヨトウ2齢幼虫に対する殺虫剤の効果

系統名	農薬名	希釈倍率	補正死虫率(%)	
			5日後	
			御坊市	印南町
スピノシン系	ディアナSC	5,000	100.0	100.0
	スピノエース顆粒水和剤	5,000	100.0	100.0
アベルメクチン系	アニキ乳剤	2,000	100.0	100.0
	アフーム乳剤	2,000	83.3	40.0
その他	コテツフロアブル	2,000	100.0	100.0
その他	プレオフロアブル	1,000	100.0	66.7
IGR(脱皮促進)	マトリックフロアブル	1,500	100.0	70.0
IGR(脱皮阻害)	カスケード乳剤	4,000	0.0	3.3
ピレスロイド系	トレボン乳剤	1,000	0.0	6.7
	アディオオン乳剤	3,000	0.0	0.0
ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	2,000	13.3	3.3
	プレバソンフロアブル5	2,000	0.0	0.0
MET I 剤	ハチハチ乳剤	1,000	10.0	6.7
	無処理		0.0	0.0

供試虫：2017年6月20日に御坊市名田町野島、印南町津井で採集し、人工飼料で飼育した次世代の2齢幼虫

処理日：2017年7月26日

調査日：2017年7月31日

葉片浸漬法、処理2日後に無処理の葉片を追加

担当：農作物病害虫防除所
岡本崇、井口
電話：0736-64-2300